

モデル事業名	廃校・空き家と耕作放棄地を活用した田舎体験プロジェクトによる都市農村交流と人口定住
活動団体名	貴和の里にっどう会
ホームページ	www.nakazono.lab.kde.yamaguchi-u.ac.jp/kiwa/index.html
所属/担当者名	事務局 岡本 雅
連絡先	TEL 083-287-1096 E-mail qqfw3u59@dolphin.ocn.ne.jp
活動地域	山口県下関市菊川町豊東東部 樅の木・道市・轡井集落

### ● 活動地域の概要

- ・樅の木・道市・轡井集落は、下関市菊川町の山間谷間に位置する。
- ・道路整備により下関市中心市街地まで車で約 25 km、美祢西 IC、小月 IC まで車で 15 分程度と都市生活者にとっては比較的近距离にある自然豊かな美しい田舎である。
- ・人口 145 人、55 世帯の小規模集落である。
- ・集落の高齢化率は 47.5% と高く、人口減少・高齢化が進み、空き民家や担い手不足による耕作放棄地が目立っている。
- ・平成 19 年 3 月に地区内唯一の豊東小学校轡井分校が廃校となり、コミュニティの活力低下が大きな問題となっている。



【山口県内位置図】



【集落周辺図】



【ボランティアで再生した空き民家の外観】



【廃校になった轡井小学校分校】



【棚田】

### ● 活動地域の課題

H20 年度事業により、以下の 4 つの課題が明らかになった。

- 1) 夏休みを中心に地域塾を実施したが、夏休み以外にも定期的に都市住民が集落を訪れる仕組み作りを進めていかなければならない。また廃校を拠点に地域塾を実施したが、屋外空間（運動場）については積極的に利用されているが、屋内空間（教室）についてはまだ利用頻度が低く、屋内を利用するための整備が必要である。
- 2) 地域塾は日帰りであったため、都市住民に地域のことをより深く知ってもらうためには、滞在時間を延長するようなプログラムが必要である。そのためには滞在施設が必要であるが、空き民家 1 軒の実測調査及びボランティアによる補修を実施したが、宿泊利用に向けては台所・浴室の設備改修が必要である。
- 3) 空き民家は他にも 4～5 軒確認されており、それらの実測調査及び貸出に向けての検討が必要である。
- 4) 耕作放棄地のマップを作成したが、広範囲にまたがりこれの再生にどう手をつけたいのか大きな課題となる。

### ● 活動の内容

#### ・平成 20 年度

地域塾の開講と参加者のアンケート収集と意向調査。廃校・空き家及び耕作放棄地の実態調査。  
空き家・耕作放棄地の活用方法・使用可能な整備。

#### ・平成 21 年度

夏休み子ども塾 6 回で 356 名、地域大人塾 24 名、稲刈り・芋ほり・餅つき 187 名  
総勢 567 名の参加があり、市内各地からと地元会員も参加が増え一緒に楽しむ雰囲気が出てきた。  
改修した民家の田舎体験は、一般の利用には及ばなかったが、市立大学生がゼミで一泊した他、地域塾でカレー作りや芋ほりの昼食会場として利用した。  
昨年再生した耕作放棄地にヒマワリ・コスモス・蕎麦を播種して景観を一変させることが出来た。耕作放棄地を新たに 35 アール草刈を実施した。

## ・平成22年度

### 五右衛門風呂の完成

山口県きらめき財団の「県民活動まちづくりファンド助成事業」に応募し採択されて、貴和の宿の隣に別棟で五右衛門風呂を完成させた。

### 地域塾

前年同様たけのこほりから餅つきまで多くの参加を得て開講出来た。耕作放棄地の再生は昨年に引き続き景観作物のコスモス・蕎麦を作付け、蕎麦は年末に製粉して蕎麦うちが出来た。

今年は新たに念願であった菜種を植えることにしたところ、下関県民局から県の「中山間地域元気創出支援事業」で協力してもらえることになり、35アールに県の職員20人も参加して、播種・間引き作業を行った。

### きむじやん交流 in 貴和の里

人間いきいき研究会と協働でAVAN=KORIA「アジア・ボランティア・アソシエーション・ネットワーク=韓国」から会員の若者と過疎村の婦人11人を招いて4泊5日の日程で現場のキムチづくりを学び、交流を深めた。

### 竹林の整備

きくがわ竹林ボランティアが「山口県森林づくり活動支援事業」に取り組み昨年までの農水省事業を引きついで竹林の整備と竹粉・竹炭の生産に当会も一緒に活動することになった。



写真の右奥



県職員も参加して菜种植え



きむじやん交流 in 貴和の里

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

地域塾を4回開講し、参加者のアンケートと意向調査をし、次の活動の参考にした。

廃校と空き家の実態を調査した。廃校は市から借受け、空き家も所有者の了解を得て無償で借りることが出来た。

耕作放棄地の実態調査を行い、46アールを草刈と耕転し翌春の作付けを可能にした。

借りた空き家を会員の手で傾きの修正、床下の補修・補強をし、広い板間づくり、囲炉裏・かまどを再現した。

### ・平成21年度

地域塾は、10回開講しほぼ定着してきたと思われる。廃校は「貴和の館」と命名し、活動の拠点として活用している。空き民家は、「貴和の宿」として活用を始めたが、風呂の設置・厨房の整備・トイレの改修があり、次年度からの課題となっている。

耕作放棄地の再生は、出来る見通しが立って来たので牛の放牧活用も含めて拡大できることが立証できた。

### ・平成22年度

過去3年の地道な活動が徐々に周囲から認められるようになって来たと思われる。

総合支所の毎月発行のカレンダーに活動紹介が載るようになり、菜种植えがKRY、貴和の宿がTYS両テレビの取材を受け放映された。

3大新聞と山口新聞には、常に行事の情報を入れ掲載してもらい、取材も受け記事にして紹介して貰っている。

地域塾の参加者も市内を問わず宇部・山陽小野田・美祢・北九州各市にひろがり、巾広くなってきた。

会員も会の趣旨に賛同して地域外の人が増えて、90人を超えた。

地元の高齢者が喜んで参加してくれるようになった。

## ● 今後の課題及び展望

### ・ 課題

地域塾の内容見直し、貴和の宿の活用方法、貴和の館の改修、耕作放棄地再生後の活用、資金調達をどうするか、活動メンバーの確保と課題は多い。

### ・ 展望

地域内の理解もだんだんと得られ、8割以上の入会があり、地域外を含めて90名を超えた。

大学との連携も山口大学工学部に加えて下関市立大学からも協力が得られるようになった

両大学の学生が、地域の実態を卒論に取り上げ、更に緊密な連携が生じてきた。

山口県の県民活動パワーアップ賞受賞を受けたこと、テレビ・新聞等に多く報道されたこと等から市内各界各層から注目されるようになり、行政サイドからも何かと声がかかるようになった。

地道な活動を続ける中で地域内外から次のリーダーやスタッフを養成することに努めれば成果は上がり、初期の目的達成に少しづつ近づけるものと考えられる。